

北九州市・下関市で練習船「大島丸」体験航海を実施

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性や魅力を広く知っていただくため、関係団体等と協力し、海事施設の見学会等を実施しています。

このたび当協会は、8 月 18 日（火）に北九州市、翌 19 日（水）に下関市において、北九州市港湾空港局、下関市港湾局、九州海事広報協会及び大島商船高等専門学校（以下「大島高専」）と協力し、練習船「大島丸」の体験航海を実施しました。北九州市では約 60 名、下関市では約 80 名の方にご参加いただきました。また、下関市での体験航海後には、海洋少年団を対象とするイベントが同船内で開催され、当協会は海運に関する出前授業を行いました。それらの模様をお知らせします。

両日の体験航海では、まず船内の学生ホールに集まり、乗船中の注意事項などについて説明を受けました。その後、船を操縦する「船橋（ブリッジ）」や「機関制御室」、「機関室（エンジンルーム）」のほか、実習生の居住スペースなど、普段は見ることのできない船内設備を自由に見学しました。船内の各所では、大島高専の先生方や学生の皆さんが丁寧に案内・説明をしてくれました。

船橋では、双眼鏡を使って関門海峡を眺めたり、電子海図を操作して日本全体から関門海峡周辺まで拡大・縮小したりする等、実際に船員が船を運航する様子を間近で見学しました。

機関室では、大きな音を立てて船を動かすエンジンを間近で見学し、参加者はその熱気と迫力に驚いていました。

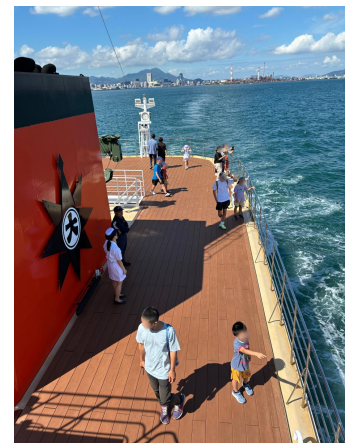
両日もとも天候に恵まれ、参加者は甲板に出て思い思いに周囲の写真撮影を楽しんでいました。関門海峡を航行し、岸壁へ帰港する様子まで見学した後、再び学生ホールに集まりました。



船橋で電子海図を見学



機関室を見学



甲板からの景色

学生ホールでは、大島高専の在学生 5 名から、同校を選んだ理由や学校生活で楽しいことなどについて、実体験を交えながらお話していただきました。同在学生は北九州市や下関市にゆかりがあり、参加した子どもたちは、地元の先輩たちの話に熱心に耳を傾けていました。



在学生のお話

最後に、大島高専から学校説明が行われました。海運は大量の貨物を効率的に運ぶことができる社会に欠かせない仕事であり、高専では船員を目指すための専門的な授業が行われていることが紹介されました。また、教室での学習だけでなく、実際に船に乗って体験航海を行う実習もあり、海や船が好きな人にはぜひ入学してほしいと話されていました。さらに、令和8年熊本地震では「大島丸」が支援活動に従事し、生活用水の供給やシャワールーム等、船内設備の提供を通じて被災者支援を行った事例も紹介されました。



学校紹介

参加者からは、「船乗りという仕事がある事、高専という進学先がある事を知る事ができ、将来の選択肢が増えた」「自分も大人になったら船員になってみたいと思った」といった声が聞かれました。今回の体験航海を通じて、参加者の皆様に海運や船員の仕事への理解を深めていただくとともに、海事産業の魅力を身近に感じていただく貴重な機会となりました。



集合写真（左：下関市、右：北九州市）

下関市での「大島丸」体験航海終了後には、同船内で海洋少年団を対象としたイベントが開催され、当協会から海運について出前授業を行った後、JRCS 株式会社※の協力のもと電磁推進船の工作教室が実施されました。

出前授業では、身近な食べ物や衣服を例に、日本はたくさんの資源を外国から輸入していることを示し、その貿易量の99.5%を運ぶ海運が重要な産業であることを解説しました。さらに身近なものを運ぶ船として、コンテナ船と自動車船を取り上げ、船の大きさ、船内の構造、効率よく大量に船につみこむ工夫等を紹介しました。



当協会の出前授業

当協会では、今後も皆様の日々の生活を支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

以上

※動力・計装システムの開発、製造、販売、メンテナンスを行う船用メーカー
(<https://www.jrcs.co.jp/>)